

# 公安委員会定例会議(第24回)の開催状況

第1 日 時 令和元年9月25日(水)

午後1時30分 ～ 午後5時00分

第2 出席者 渡部委員長、増田委員、曾我部委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官

生活安全部長、刑事部長、交通部長、警備部長

警察学校長、情報通信部長、総務課長

第3 議事の概要

## 1 委員長説示

秋の全国交通安全運動が始まっており、あおり運転の対策など、県警察と一般企業とがコラボしたいろいろなイベントが開催され、その様子がテレビや新聞で報道されています。また、自転車の盗難を防止する対策である“愛錠ロック作戦”など、様々な取組において関係機関や民間の方々との連携が広報されることは、県民に交通安全や防犯対策等と呼びかける上で、とても大切だと感じています。

こうした中、相手の立場に立つことはとても難しいことですが、特に警察職員は、性別や年齢の違い、罪を犯した人や犯罪被害者など、いろいろな方々と接することから、常に相手の人権を意識して対応することが重要となります。

人権に対する指導教養にしっかりと取り組み、人権侵害による深刻な影響をよく認識することが必要だと感じています。相手の人権に対する無関心や無理解があったのでは、県民の信頼を得ることはできません。

私は、すべての警察職員が、相手の立場や人の痛み、そして人の気持ちを理解しようとする、人権意識の高い警察職員であってほしいと強く思っています。

## 2 決裁事項

### (1) 公安委員会定例会議の会議録について

総務室から、令和元年第23回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

### (2) 意見書の受理について

総務室から、松山市議会からの公安委員会宛て意見書の受理について伺いがあり了承した。

(3) 警察職員等の援助要求について

警備部から、警察職員の援助要求に対する回答について伺いがあり了承した。

(4) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞について

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果25件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

### 3 報告事項

(1) 令和元年度警察官(高校卒程度)等採用試験の申込状況について

警務部長から、令和元年度警察官(高校卒程度)等採用試験の申込状況について報告があった。

(2) 令和元年夏季人事異動について

警務部長から、令和元年夏季人事異動について報告があった。

(3) 誤認逮捕事案の再発防止対策について

本部長、刑事部長及び総務室長から、誤認逮捕事案の再発防止対策について報告があった。

◇ 委員長から、

人権を侵害するような行いに対する指導や教養をしっかりとすることが必要である。

◇ 委員から、

一般の人が今回の事案をどのように思っているのかをよく考えて、県民に説明する必要がある。

◇ 委員から、

調査結果で判明した、抜け落ちてしまった部分をよく見直すことが大切である。その上で、再発防止対策もより良いものになるよう見直しながらか進めてほしい。

などの発言があった。

(4) 損害賠償事案の知事専決処分について

首席監察官から、損害賠償事案の知事専決処分について報告があった。

(5) 監察案件に関する報告について

首席監察官から、監察案件について報告があった。

(6) 内閣総理大臣表彰の受賞について

警備部長から、令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞について報告があった。

(7) 警察逮捕術大会の結果等について

警務部から、令和元年度中国四国管区内警察逮捕術大会の結果及び術科訓練状況について報告があった。

(8) 警察歯科医会研修会の開催等について

刑事部から、令和元年度愛媛県警察歯科医会研修会及び協議会の開催について報告があった。

(9) 交通重大事故防止3か月対策(第4期)の推進方針について

交通部から、交通重大事故防止3か月対策(第4期)の推進方針について報告があった。

(10) 禁止命令の実施について

生活安全部から、ストーカー規制法等の規制等に関する法律に基づく禁止命令及び実施状況について報告があった。

#### 4 その他

曾我部委員から、「企業は、情報技術のIT、モノのインターネット技術であるIOTを活用した業務改良ということを検討しており、その中で“生産効率を上げる、そのためには稼働率を把握する”というよくある議論になり、何十年も前に、ある企業で働いていたときのことを思い出した。その会社でも投入した時間に対して製品を何個作ったかなど稼働率を各部署で発表させていたが、どの部署も100%で“問題なし”であった。疑問に思ったので実質データをみると100%に足りない状態であったが、100%と回答しており、どこかに問題点があることが分った。しかしこれを発表するとえらく怒られた。昔から100%に決まっているんだということだ。何かを改善しようとする時、何のためにやっているのかを見失わないでほしい。また、改善のための対策を定めても、その運営の方法を間違えると改善には結びつかない。何のためにやっているかをきちんと認識し、目先の結果に捉われなくて広く着眼点を持って問題点を見つけ出すこと。その上で問題点と何が因果関係にあるのかを見つけて、改善に取り組むことが大事だということだ。」との発言があった。

以上